

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業〕
亀戸ダイコンの春～秋季の栽培とス入りの発生状況

馬場 隆
(江戸川分場)

【要 約】 亀戸ダイコンを2～9月播種で露地栽培すると、46～60日で収穫できる。夏季の防虫網によるトンネル栽培では生育が早まるが、ス入り、空洞の発生が多くなる。ス入りについては、根径40mm程から発生し、45mm以上になると増加する。

【目 的】

亀戸ダイコンの生産拡大のため、周年の栽培マニュアルを作成する。本年は早春～秋季の栽培と昨年発生が多かったス入りについて発生状況を明らかにする。

【方 法】

昨年の亀戸ダイコン系統特性試験の結果、形質が比較的安定している「白茎亀井戸大根」で試験を行う。分場の露地圃場に70cmベットを設置し、条間15cm、株間15cmとした。施肥は10aあたりN、P₂O₅、K₂O各12kgの全量基肥とした。播種後サンサンネット(1mm目合い)を展開した。

播種期と収穫期：2月7日、3月30日、5月22日、8月2日、8月24日、9月6日、9月20日の7回播種した。地際の根径45～50mmを目安に収穫した。

資材試験：トンネル区(サンサンネット)、べたがけ区(パオパオ)および無処理区(露地)を設置し、8月2日播種、9月17日に調査した。

ス入り調査：2月7日、3月30日、5月22日、8月2日、9月6日、9月20日播種について、スの有無について調査した。

【成果の概要】

1. 播種から収穫までの日数は46～60日で、全て収穫を迎えた。全ての栽培期間でス入りがみられ、空洞は8月2日播種で、裂開は5月22日播種で目立った(表1)。
2. トンネル区、べたがけ区、露地区を比べると、葉色は露地区が濃く、葉長はトンネル区が長い。根径、全重等はトンネル区が大きい。トンネル区はス入り、空洞も多い。これはトンネルでの生育が早く、根径が大きくなったためと考えられる(表2)。
3. ス入りについてみると、2～8月播種では根径40mm程で生じており、45mm以上になると増加している。播種後日数では40日過ぎから発生している。また、9月20日播種ではス入りが遅かった(図1)。

【残された課題・成果の活用・留意点】

栽培期間の拡大については、一年を通して栽培は可能と考えられるが、夏季は病害虫の発生と共に、辛味が強いことが問題となる。ス入りについては時期、栽植密度、資材等から検討する必要がある。

表1 亀戸ダイコンの播種期と収穫期

播種日	調査日	草姿	抽根長 (cm)	葉色 (SPAD)	葉長 (cm)	根長(cm)		根径 (mm)	根形	全重 (g)	根重 (g)	葉重 (g)	ス (%)	空洞 (%)	裂開 (%)
							1.5cm以上								
2/7	4/6	ヤヤ開	4.2	46.0	36.8	27.5	17.1	46.0	円錐	281	158	124	42	0	0
3/30	5/15	ヤヤ立	3.8	43.2	46.0	30.4	18.4	49.3	円錐	379	195	210	29	4	0
5/22	7/11	中	5.6	34.7	37.7	30.5	19.3	47.8	円錐	296	185	125	29	4	50
8/2	9/17	中	4.9	38.9	48.8	33.8	22.7	48.7	長円錐	497	237	260	42	33	0
8/24	10/21	ヤヤ開	3.3	37.3	45.3	29.0	16.4	45.4	円錐	302	152	150	6	0	11
9/6	10/31	中	6.5	36.7	41.2	29.1	21.3	47.3	円錐	359	130	229	42	0	8
9/20	11/19	中	3.6	37.2	46.7	26.2	16.8	47.4	円錐	305	135	170	29	0	8

表2 亀戸ダイコン栽培におけるトンネルとベタがけの効果(8月2日播種、9月17日収穫)

処理	草姿	抽根長 (cm)	葉色 (SPAD)	葉長 (cm)	根長 (cm)	根径 (mm)	根形	全重 (g)	葉重 (g)	根重 (g)	ス (%)	空洞 (%)	裂開 (%)
トンネル	中	4.9	38.9	48.8	33.8	48.7	長円錐	497	237	260	42	33	0
べたがけ	中	3.8	39.3	45.0	29.6	47.4	円錐	385	212	173	8	17	0
露地	ヤヤ開	1.8	42.6	36.2	29.4	42.1	円錐	273	117	156	0	0	8

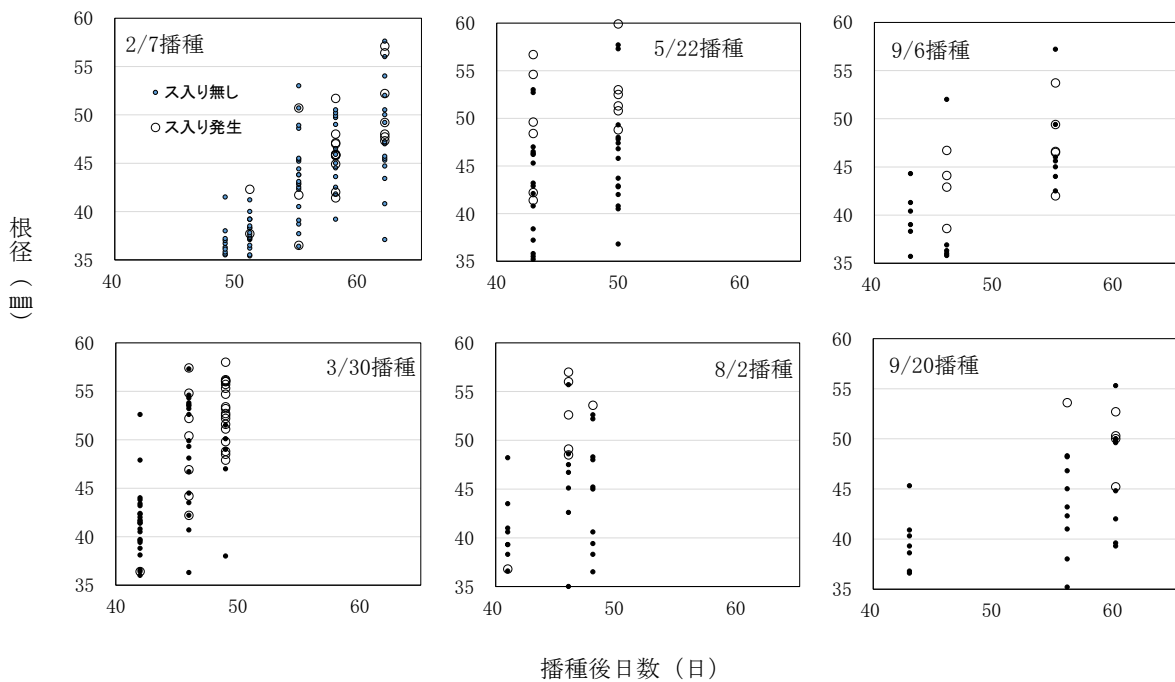


図1 ス入り発生の根径と播種後日数の関係

(○ : ス入り発生, ● : ス入り無し)